

沖縄県立図書館・“Born Again Uchinanchu” Book Project
(ハワイ沖縄連合会) 共同プロジェクト



GIFT FROM CHJ MUGUKURU
～ハワイの赤瓦～

*この企画展は、2022.6.1～7.4に、沖縄県立図書館5F展示架にて開催したものです。



「ハワイ沖縄センター建設募金」趣意書パンフレット
ハワイ沖縄センター建設募金推進委員会 1988年6月

沖縄県人が初めて契約移民としてハワイに上陸したのは、1900年。今から120年以上も前のことです。移民一世たちは、大変な苦勞を重ねながらも、助け合い、また郷里を想いながら、生活の地盤を築いていきました。第二次世界大戦では、日本とアメリカが敵対するなかで、ハワイ生まれの二世たちが兵士として戦争に従軍し、一世たちは複雑な思いで戦況を見守りました。

現在、ハワイには沖縄県系人が約 4 万人以上いると言われており、沖縄文化を未来のウチナーンチュに継承していくため、様々な活動が行われています。1982年から毎年開催されている沖縄フェスティバルは、2日間で数万人が参加するハワイで最大の民族系イベントとなっています。

沖縄県系人の活動の場である「ハワイ沖縄センター」は、沖縄からの移民90周年を記念して、1990年にハワイ沖縄連合会 (Hawaii United Okinawa Association) によって建設されました。

GIFT FROM CHIMUGUKURU ～ハワイの赤瓦～



沖縄発・赤瓦 / 枚運動

ハワイ沖縄センターへ
赤瓦を送ろう

1988～'89



ハワイに瓦を送る会
主催 グループ77 S・O・M

「ハワイ沖縄センターへ赤瓦を
送ろう」パンフレット
ハワイに瓦を送る会 1988年
12月

沖縄戦で荒廃した郷里・沖縄の復興のために、戦後にハワイの沖縄県系人が衣料品や生活物資、医薬品、豚や山羊などの援助物資を沖縄に贈り、多くの人が救われたことはよく知られています。

では、その後の交流についてはご存知でしょうか？

1980年代に、ハワイ沖縄センターの建設計画が持ち上がったとき、沖縄県内でも沢山の自治体、企業、個人から多くの募金が寄せられました。

なかでも、センターの屋根に「赤瓦」を設置することを目的とした募金は、一般県民が直接参加し、恩返しの気持ちを「赤瓦」に込めた運動となりました。

今回、ハワイと沖縄の心 `CHIMUGUKURU"を繋ぐストーリーをご紹介します。



ハワイに瓦を送る会

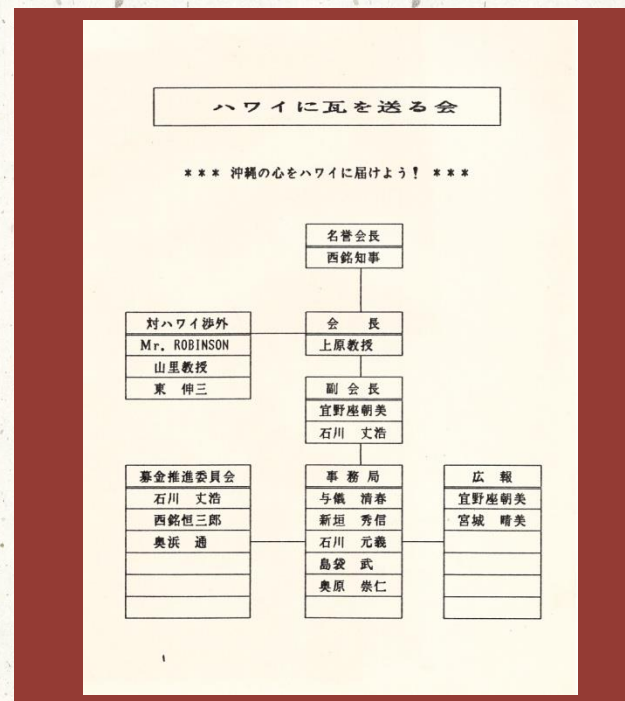
1980年、ハワイ沖縄連合会は、移民90周年記念事業として、オアフ島にハワイ沖縄センター建設を計画しました。ハワイ在住の県系人・県系企業からの寄付金や沖縄県・市町村の補助金が建設費に当てられました。

沖縄では、元参議院議員稲嶺一郎氏を中心に募金活動が行われ、企業、団体などを中心に多くの募金が集められました。

センター建設責任者のモーリス・ヤマサトの計画では、屋根瓦は、ハワイで入手・施工可能な灰色の日本瓦の予定でした。沖縄の象徴する赤瓦には、技術や資金が不足していたからです。

1988年夏、この話を聞いた石川丈浩は、親しい友人でつくった模合「グループ77」の席で、センターに赤瓦を設置するためにできることではないかと呼び掛けました。

彼らは、幼少期に海外の県系人からの救援物資（学用品）で助けられたことを覚えていました。そして、この模合メンバーを核として、県民へ募金を呼びかけ、ハワイへ赤瓦を送ることを決めました。名付けて「赤瓦1枚運動」です。



「発会当時の「ハワイに瓦を送る会」組織図



沖縄発ハワイ行・赤瓦1枚運動

「ハワイに瓦を送る会」の目標額は1000万円。
約300坪の建物の屋根に敷く赤瓦の購入費、漆喰等資材費や輸送費などから試算した金額でした。



購入チケット

「沖縄の心(ちむぐる)」を赤瓦に託し、ハワイ沖縄センターに送ろう！ 沖縄発ハワイ行・赤瓦1枚運動

メンバーは、連番の赤瓦購入チケットを1枚1,000円で販売することにしました。チケットには、購入者の氏名や連絡先を記入できるようにし、最終的にハワイ沖縄連合会へ渡し、壺に入れてセンターに埋めてもらいました。

販売当初は、事務局のメンバーがそれぞれの家族や友人、同僚のつてをたどって、チケットを販売していきました。

この運動は、ラジオや新聞などを通して広く県民に呼び掛け、県内各市町村の呼び掛け人の協力もあり、全県的な運動になりました。

県内各地の個人からの募金に加え、沖縄県、那覇市、浦添市、金武町、与那原町、読谷村、中城村、県警察本部、琉球放送、白石グループなどから職域寄付も行われ、1989年6月ごろまでに目標額を大きく上回る約2,000万円が集まりました。



入魂式

「ハワイに瓦を送る会」は、ハワイへ送るための赤瓦7万5千枚の製造を与那原町の奥原製陶所に依頼しました。代表の奥原嵩仁は、この運動に深く共感し、割安で製造を請け負い、1989年6月上旬には無事に全ての瓦が仕上がりました。

さらに、沖縄陶業社長新城信勝、及び玉城流玉扇会家元玉城秀子も協力を申し出て、シーサー2体を寄贈することになりました。

1989年6月22日、奥原製陶所において、寄付をした方々の「沖縄の心“CHIMUGUKURU”」を赤瓦に込め、さらに安全な航海を祈願するための入魂式が行われました。入魂式には、ハワイ沖縄連合会のジョン・タサト会長、ウェイン・ミヤヒラ次期会長、ハワイ沖縄センター建設プロジェクトのゲーリー・ミージョー副会長も参加しました。



関連新聞展示



1989年6月22日
奥原製陶所で入魂式



瓦輸送

1989年6月22日の入魂式のあと、「感謝のタベ」が催され、ジョン・タサト会長らに目録などが進呈されました。

謝恩会には、西銘順治名誉会長（知事）、親泊康晴那覇市長をはじめ、運動に尽力した方々を招いて、沖縄民謡、古典音楽、フラダンスなどの余興が披露されました。

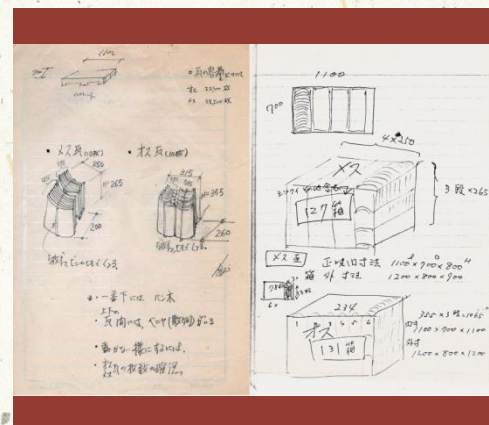
なかでも、ハワイから参加していたジョン・タサト、ゲリー・ミージョー、ロレイン・カナシロが、赤瓦を使った特製ハチマチを被って踊った「かぎやで風」は、参加者の目をひきました。

1989年9月10日午後5時、7万5千枚の赤瓦157トン を載せたアメリカ船籍の貨物船セント・パトリオット号が那覇港を出港しました。船は、カリフォルニア州 ロングビーチに寄港した後、10月4日、ハワイへ到着しました。

輸送時に破損しないよう、瓦の梱包方法まで綿密に検討していたおかげで、輸送時の破損はほとんどありませんでした。



瓦ハチマチ



瓦の梱包イメージ図



瓦葺職人



赤瓦の施工には、瓦葺職人（ムチゼーク）の卓越した技術が求められます。

赤瓦と日本瓦の施工方法は大きく異なるため、沖縄からハワイに職人を派遣することになりました。

沖縄陶業社長の新城信勝は、「ハワイに瓦を送る会」に熟練の瓦葺職人のリーダーである村山盛吉を推薦し、村山が経験豊富な6名の職人を選抜しました。

歓迎のレイを首にかけている7名の瓦葺職人（ムチゼーク）
右から村山盛吉、川端嘉助、新垣栄本、ハワイの県系人、宮里繁、
ヘンリーイサラ、上地安盛、嘉数二郎、山城盛安



瓦葺職人

氏名	出身地	年齢（当時）
村山 盛吉	南風原町大名	57
川端 嘉助	南城市玉城字志堅原	57
山城 盛安	那覇市真嘉比	57
嘉数 二郎	那覇市長田	51
宮里 繁	南風原町新川	51
上地 安盛	那覇市古島	51
新垣 栄本	八重瀬町東風平字志多伯	54

選ばれた職人たちは、ハワイ出発の直前まで八重山の石垣市立図書館（のちに日本図書館協会建築賞受賞）の建設現場で作業中でした。初めは、全員同時にハワイへ出発する予定でしたが、悪天候で作業が遅延していたため、新垣栄本、嘉数二郎、上地安盛の3人が先発することになりました。

その時には、「ハワイに瓦を送る会」事務局で建築士の与儀清春も同行し、約1カ月間、職人たちと行動を共にしました。

先発隊は、漆喰に混ぜるための部材の調達や瓦を屋根まで持ち上げる作業などを行って、全員が揃うまで瓦葺作業の準備を整えていました。

約2週間後、1990年3月14日、村山など残りの4人がハワイへ到着し、ホノルル国際空港で、ハワイ沖縄センターのデザイン・建設委員長のジョージ・ウエマと建築士のモーリス・ヤマザトが出迎えました。



Construction in Hawaii I

センターにはヒガ・ビルディング（ハワイ沖縄連合会の事務所）とテルヤ・パビリオン（多目的ホール）の二つの建物が建設されました。

瓦葺職人たちは、ワイピオの暑い太陽の下、1日10時間、週6日働きました。建物の高さに怯えることもなく、屋根に登り、丁寧にそして素早く作業を行っていました。

最初に、ヒガ・ビルディングの施工を行い、次により大きく高いテルヤ・パビリオンに取りかかりました。

完成する前から、県系人たちは、ハワイ沖縄センターができることを誇りに思っていました。実際、多くの県系人が、建設現場に何度も足を運び、徐々に形作られていくセンターの工事を見守っていました。瓦葺職人たちが沖縄からやってきてからは、これに拍車がかかりました。職人たちは、素早く的確に瓦を設置し、屋根を赤土色に染めていき、県系人たちを驚かせました。



前列右から上地安盛、山城盛安、与儀清春、
後列右から嘉数二郎、宮里繁、新垣栄本、
村山盛吉、川端嘉助



Construction in Hawaii I

1990 年4 月20 日、赤瓦の施工が終わり、センターの屋根にシーサーが設置されました。青い空の下、シーサーはクレーンで持ち上げられ、一体のシーサーは、大きいテルヤ・パビリオンの屋根に、もう一つはヒガ・ビルディングの屋根に設置されました。

それを地上から見ていたボニー・ミヤシロは「とても感動的な瞬間だった。」と振り返ります。

そして、予定より早く瓦設置作業は完了しました。

HOC屋根の上で作業中





Construction in Hawaii II

瓦職人たちは、ホノルル市内のアアラ公園のそばにあるコバヤシホテルに6 週間逗留しました。このホテルには、1 階に小さなレストランがあり、勝連町出身のチヨ・ビーチが経営していました。チヨは、沖縄そば、中身汁、ゴーヤチャンプルーなど心のこもった沖縄料理を提供し、県外で長期間滞在する職人たちをもてなしました。

村山が当時書いたメモには、ハワイでお世話になった多くの県系人の名前が記されています。

ホテルからハワイ沖縄センターのまで約 25km の距離を毎朝晩送迎してくれた人。赤茶色に汚れた作業着を洗濯してくれた人。ランチを準備してくれた人。通訳や身の回りの手伝いをしてくれた人。ホームパーティやピクニックに招いてくれた人などの名前です。

特に、ハワイ生まれのジョージ・ウエマは幼少期を両親の故郷・北谷で過ごしたことがある二世で、ウチナーグチが堪能でした。

ウエマは、献身的な“CHIMUGUKURU”で職人たちをサポートしました。



ハワイ州議会下院から、「ハワイに瓦を送る会」と瓦葺職人へ感謝状が送られました。





完成



1990 年6 月16 日、ハワイ州知事をはじめ、沖縄からは西銘知事も参加し、ハワイ沖縄センターの開会式が盛大に行われました。

「ハワイへ瓦を送る会」の宜野座、石川両副会長もその場に招かれていました。会場には約50名の移民一世と思われる方々があり、宜野座は「間に合った」と安堵したといいます。「一世の方々に沖縄の懐かしい風景を感じて欲しい、若い世代には沖縄の建築文化を感じて欲しい」という思いから始まった運動でした。そして、「ハワイからの仕送りや救援物資への感謝を県民の多くが共有していたからこそ、わずか数カ月で多くの募金が集めることができた」と振り返ります。

帰国後、村山は琉球新報の取材に答えています。

「われわれ瓦葺職人は、ハワイ沖縄センターに沖縄の伝統建築である赤瓦を施工することができてとてもうれしい」と。

また、職人の一人、宮里は、「ウチナーグチ、英語、ジェスチャーを交えて、ハワイのウチナンチュの人々と一緒に楽しく仕事をすることができた。沖縄と世界のウチナンチュの懸け橋になることができて幸せだ」と語っています。



GIFT FROM CHIMUGUKURU ~ ハワイの赤瓦 ~

Roof Tiles From Okinawa

The unique “kawara” roof tiles of the Hawaii Okinawa Center were a generous gift from the people of Okinawa. Those Uchinanchus sent 75,000 tiles and seven craftsmen to install them. The impressive roofs are the first such roofs outside of Okinawa. The gift reflects the true Uchinanchu spirit of mutual support and cooperation.

The United Okinawan Association of Hawaii is grateful to the HAWAII-NI-KAWARA-O-OKURU-KAI group of Okinawa for initiating and coordinating the roof tile project.

ハワイ沖縄センターの壁には、
このパネルが設置されています。

ハワイ沖縄センターの特徴的な屋根の赤瓦は、沖縄の人々からの寛大な贈り物です。それらを設置するために75,000枚の瓦と7人の職人がハワイに送られました。この印象的な赤瓦が沖縄県以外で設置されたのは初めてのことでした。この贈り物は、真の沖縄のCHIMUGUKURUを反映しています。

ハワイ沖縄連合会は、この瓦プロジェクトを実施し、調整してくれた沖縄の「ハワイに瓦を送る会」に感謝します。





出典：『Okage Sama De The 1990 Okinawan Celebration』, The 1990 Okinawan Celebration Committee. ID:1009059658



あれから30年以上経過しましたが、現在もハワイ沖縄センターの屋根にはCHIMUGUKURU が詰まった赤瓦が、ハワイの青い空に映えています。

＊この企画展は、2022.6.1～7.4に、沖縄県立図書館5F展示架にて開催したものです。



謝辞



この展示は、『Born Again Uchinanchu』Project（ハワイ沖縄連合会）と沖縄県立図書館が協働し、ハワイと沖縄の関係者にそれぞれ聞き取り調査などを実施し、作製いたしました。

『Born Again Uchinanchu』は、『Uchinanchu, A history of Okinawans in Hawaii』（ハワイ大学出版、1981年、英語）の続編として、1980年以降のハワイ県系コミュニティの動向を紹介する本で、来年出版される予定です。

聞き取り調査、資料提供等にご協力いただいたみなさまに深く感謝申し上げます。

SPECIAL THANKS TO

宜野座 朝美	Asami Ginoza
与儀 清春	Kiyoharu Yogi
村山 盛吉	Moriyoshi Murayama

カーリーン・チネン Karleen Chinen
“Born Again Uchinanchu” Book Project
ハワイ沖縄連合会 Hawaii Okinawa United Association

2022年6月1日
沖縄県立図書館長
宮城 威